

日本経済新聞(夕刊)

2005年(平成17年)11月8日(火曜日)

生活

生活 ワーキングウーマン



社長も出席し、開かれた千趣会・ハナメソンの総会(10月、大阪市)

田辺製菓は二〇〇三年七月にボジティブアクション推進チームを社内組織した。「製菓業界は全体的に女性活用が遅れているように改善する計画。女性管理職を十年後に三割に引き上げる」と宣言。大阪府男女いきいき・元氣宣言登録企業

働く女性たちのネットワーク活動も大阪では熱心だ。一九八四年発足の「よこ会の会」には大手企業の管理職やベンチャー企業社長など約百三十人の働く女性が参加している。会の中でロールモデルを見つけたら、意欲とスキルアップを目的に月一度、定例会を開いたりして、互いに情報交換、鍛え合っている。

現場レベルで

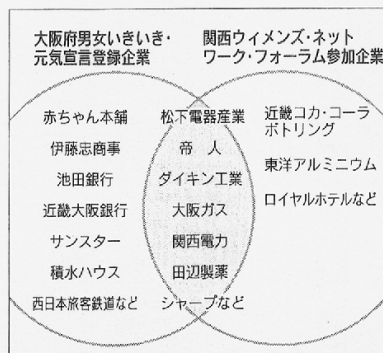
会長の黒瀬友佳子さんの本職は帝人クリエティティブスタッフ女性活躍推進室長。帝人グループの女性活用責任者だ。運営委員の森永子さんは大阪府男女共同参画課の職員。府の「男女いきいき・元氣宣言」事業の企画・運営を担当する。

本音の議論も

偶然。ただ互いに気心知れ存在なので、女性活用について本音で語る強みがある。黒瀬さんは「都市と違って大阪は東京ほど大きくない。知人をたどっていくと誰かしら関係者にたどり着く。個人ベースでつながりを作りやすい地理的環境も女性活用推進に一役買っているのでは」と指摘する。

大阪で女性活用に取り組む企業が目立ってきた。松下電器産業や帝人など女性活用で先をいく地元企業の事例が波及効果となっている。行政も探検隊を整え、官民連携し、仕事と私生活の両立支援制度の整備や管理職への起用など女性活用に取り組んでいる。

大阪の企業、松下・帝人に続け！
女性活用しまっせ



管理職の登用推進
働きやすい環境づくり

社員に限れば男女比はほぼ半々。将来も彼女たちが充実感を持って働ける環境を」と強調する。ファッション開発部の安永美奈さん(31)も中核メンバーの一人。二年前に結婚し、子どもはまだいない。「出産後も仕事を続けられるか、不安だったが、ハナメソンの参加し、会社の制度や熟練学校入学前ましか利用できなかったが、今年四月新設した。女性活用に取り組んでいるから、その意の三月末まで使えるように見直した。来年度には、もういっしょにセミナーを開いて、専門家に女性活用アドバイザーなどを盛りを配布したりしている。参加企業は現在西日本

企業は働きやすい環境を支援する。大阪府は〇三年調査では、ボジティブアクション(女性の積極的な活用策)に取り組む企業は、女性活用は、業比率は〇三年度の三三・七%から、今年度は四〇・一%に増えた。大阪で見逃せないのは、その多くは具体策を見いだせている。大阪は手本となる先行企業が身近にあったので女性活用が企業の間に急速に広まっている」と分析する。

ただ最近女性活用に関する企業の意欲も高まっている。大阪労働局の調査では、ボジティブアクション(女性の積極的な活用策)に取り組む企業は、女性活用は、業比率は〇三年度の三三・七%から、今年度は四〇・一%に増えた。大阪で見逃せないのは、その多くは具体策を見いだせている。大阪は手本となる先行企業が身近にあったので女性活用が企業の間に急速に広まっている」と分析する。

三割に「一不製油は今一年一月、中期経営計画でこんな目標を掲げた。久保隆二人事務部長は、「少子高齢化で労働人口は減少する。女性社員は戦略化は経営トップの強い意思」と説明する。

統計から見ると大阪府は決して女性が働きやすい土地柄とはいえない。大阪府の女性の平均勤続年数(〇三年度)は八・四年で全国平均九年より短い。三十三歳の女性労働力率(二〇〇〇年)で比べても大阪府は五十一%で全国平均五十七%を下回り、結婚や出産をきっかけに離職する女性の多さがうかがえる。

田辺製菓、「先方に提供していただく情報」を支援していただく「千趣会」など企業の枠を超えて情報やノウハウを提携、各社のけん引役となつてはこれら先進企業が幹事となり、女性のスキルアップを目的に「関西ウイメンズ・ネットワーク・フォーラム」が開か

大阪で女性活用に取り組む企業が目立ってきた。松下電器産業や帝人など女性活用で先をいく地元企業の事例が波及効果となっている。行政も探検隊を整え、官民連携し、仕事と私生活の両立支援制度の整備や管理職への起用など女性活用に取り組んでいる。

旅客鉄道や帝人、大阪府ス、アットコーポレーションなど府内六十四社。このうち十三社は十月に「少子高齢化で労働人口は減少する。女性社員は戦略化は経営トップの強い意思」と説明する。